

連合 2018 春闘 「闘争開始宣言」 中央総決起集会



連合は2月5日、有楽町よみうりホールにおいて「2018 春季生活闘争・闘争開始宣言 2.5 中央総決起集会」を開催し、JR総連からも在京単組を中心に25名の組合員が参加した。連合はスローガンに「すべての労働者の立場にたって働き方を見直そう！『底上げ・底支え』『格差是正』でクラシノソコアゲ！」と掲げている。

集会で神津中央闘争委員長は、「2014 春闘から4年連続で賃上げを勝ち取り、2016 春闘で賃金格差の広がり歯止めをかけ反転させた。2018 春闘は、大手追従・準抛の構造を転換させ、月例賃金にこだわって闘っていく」また、「働き方改革は連合が求める中身を実現しなければならない。プロフェッショナル制度の創設、裁量労働制の拡大は必要ない。連合が先頭に立って闘っていく」と決意を述べた。

続いて労働条件委員会の野中委員長、雇用法制委員会の岸本委員長、中小共闘センターの難波委員長から決意表明があり、その後闘争開始宣言（案）が採択され、相原中央闘争事務局長の団結ガンバローで終了した。

2月中の統一要求提出で、賃上げをめざすJR総連の各単組は、2月2日のJR総連中央委員会で確認した統一ベア6,000円獲得をめざす。

JR総連傘下単組によっては早くも来週から第1回交渉が行われる。

JR総連春闘が、すべての労働者の賃上げ・労働条件の改善をリードすべく、全単組は奮闘しよう！

● 2018 春闘における連合と経団連の主な論点 ●

連合	テーマ	経団連
3%は一時金を含めず、ベアと定昇で実現 (定昇確保の上「2%程度を基準」)	ベア・賃上げ	3%は社会的要請だが、一時金含めて年収ベースで引き上げ
減収分をベアで埋め合わせる必要	残業時間削減	上限規制の強化は必要
長時間労働容認につながり反対	脱時間給制度	働き方の選択肢が増え、導入が必要